



国立科学博物館

National Museum of Nature and Science

国立科学博物館附属 自然教育園

平成28年度 学習支援活動

「やさしい生態学講座」(全6講座)

対 象：一般社会人、大学生

定 員：1講座につき40人

日 時：平成29年2月14日(火)～2月19日(日)

いずれも 13:30～15:30

会 場：国立科学博物館附属 自然教育園 第一講義室

東京都港区白金台5-21-5

入 園 料：一般・大学生310円が必要 ※ 高校生以下、65才以上の方は無料

参 加 費：無 料

申 込 方 法：平成29年1月13日(金)から電話にて受付開始

午前9:00～17:00まで(毎週月曜日と祝日の翌日は休園)

電 話：03-3441-7176 自然教育園 にて次の①から⑥をお伝え下さい。

①希望講座 ②居住地市区町村 ③氏名 ④年齢 ⑤電話番号 ⑥職業・学年等



春



秋

自然教育園は四季折々の美しさをご覧ください。

自然教育園の四季

天然記念物及び史跡



夏



冬

【交通】

JR山手線目黒駅、東急目黒線目黒駅から徒歩約9分
東京メトロ南北線・都営三田線白金台駅から徒歩約7分



国立科学博物館附属 自然教育園

平成28年度 学習支援活動

「やさしい生態学講座」 (全6講座)

趣旨：広く一般の方を対象として、身近な自然の生態的な見方について、講座を通して理解を深める。

日時：平成29年2月14日（火）～2月19日（日） 各講座とも13時30分～15時30分まで

会場：国立科学博物館附属 自然教育園 第一講義室

東京都港区白金台5-21-5 TEL:03-3441-7176

● ● 日程及び講座概要 ● ●

1. 2月14日（火） 西廣 淳 （東邦大学理学部生命圏環境科学科 准教授）

「植物の共存を可能にする「ほどほどな攪乱」とは」

洪水、山火事、草刈りなど、自然や人間が引き起こす「攪乱」は、さまざまな植物が共存する上で重要な役割を果たします。植物の発芽・成長の生態学的特性をもとに、多様性を維持する攪乱のあり方について考えます。

2. 2月15日（水） 金井 裕 （日本野鳥の会 参与）

「あなたの隣の野鳥たち」

飛ぶことによって地球上のあらゆる場所に進出した鳥類。鳥たちとはどんな生きものなのか、庭や公園、森や水辺で私たちとともにある鳥たちを、生態学の目で見てみましょう。

3. 2月16日（木） 佐藤 俊幸 （東京農工大学大学院農学研究院 准教授）

「さまざまな昆虫にみられる行動形質の適応的進化～メス探しから親子・社会関係まで」

昆虫は記載された全動物種の56%を占め、大繁栄している分類群です。単独性の種、親が子の世話をする種、女王と不妊のワーカーがコロニーをつくる真社会性の種にみられる様々な行動形質の進化について解説します。

4. 2月17日（金） 白水 貴 （国立科学博物館植物研究部 特別研究生）

「カビとキノコの不思議な生態」

最も未知の生物、菌類の知られざる世界に迫ります。地球上には150万種から1000万種の菌類が存在すると言われていますが、我々はそのたった数%しか知り得ていません。謎に満ちた菌類の変幻自在な生き様について一緒に見ていきましょう。

5. 2月18日（土） 井手 竜也 （森林総合研究所 特別研究員）

「虫えい形成昆虫のもっとおもしろい生態」

昆虫が植物を使ってつくる「虫えい」は、ときに美しく、ときに奇抜な色や形で、多くの人々を魅了してきました。この色や形にはどんな意味があるのか等、昨年度の内容に加え、さらに興味深い虫えい形成昆虫の生態をご紹介します。

6. 2月19日（日） 倉本 宣 （明治大学農学部 教授）

「里山の自然を守る～市民による生態学の活用」

里山保全活動は、「やって、みて、考える」の繰り返しで進められます。このプロセスは現実の課題を生態学を使って解き明かす時と同じです。この講座では、里山保全活動にかかわる市民による科学と思いについて、東京とロンドン近郊の活動を事例としてお話しします。